

顔

2021年本屋大賞を受賞した

町田 その子さん 41



撮影・守谷遼平
福岡県在住。2016年、「カメルーンの青い魚」で文学賞を初受賞。翌年デビュー。

「海に放流した小魚が、何十倍にも膨れあがり、クジラになって戻ってきたような気分です」。予想もしなかった受賞だという。

題名の「52ヘルツのクジラたち」のクジラとは、他のクジラが聞き取れない高い周波数で鳴き、「世界で最も孤独」とされる個体のこと。作中には、世の中で虐げられている孤独な人々のか細い声も流れる。

デビュー作「夜空に泳ぐチョコレートグラミー」以来、弱さを抱えながらも懸命に生きる人たちに寄り添う作品をつづってきた。原点には、いじめを受けた小学生時代のつらい記憶がある。救ってくれたのは、力強く生きる女性の姿

を描いた氷室冴子の小説。「明日も頑張ろうって背中を押してもらった。作家になって対談するのが夢だった」

だがその夢は、高校卒業後、理容店、菓子店などで働き、生活に追われる間にしぼんでいく。転機は2008年。「氷室さんが亡くなり、いつしか夢を諦めてふらふらしていた自分が許せなくて」筆を執った。育児の傍ら執筆を続け、作家への道を開いた。

「おばあちゃんになるまで書き続けたいんです。私は本を読むことで救われ、文章を書くことで生かされた。今度は人を救う側になりたい」(文化部 池田創)

1 町田さんの職業を記事から抜き出しましょう。

作家



今向かってまーす

2 「52ヘルツのクジラ」とはどのような人の象徴だと考えられますか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 他の人に声が届かず、孤独を抱えている人
- ② 他の人と違う能力があり、他の人を見下している人
- ③ 他の人と違う能力があり、リーダーとして活躍する人
- ④ 他の人より声が高く、すぐれた歌手として成功した人

①

作品を読んでいなくても、「他のクジラが聞き取れない」「世界で最も孤独」などの表現から、類推できます。

3 記事は、町田さんの「過去に関する部分」、「現在に関する部分」、「未来に関する部分」の3部分から構成されています。書かれている内容をよく読み、過去、現在、未来のそれぞれの話が始まる段落の最初の3文字を書きましょう(記号も1文字に数えます)。

過去：

デ ビ ュ

現在：

「 海 に

未来：

「 お ば

新聞記事は、「現在」の状態をまず伝え、それから「過去」にあたるこれまでの経緯を詳しく説明します。また、記事の最後には、今後の展開を予想したり、これからの目標を書いたり「未来」を記すことが多いです。新聞を読むときや、自分で文章を書くときに、意識してみてください。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

小学生の新人文学賞「12歳の文学賞」(小学館主催)で史上初の3年連続大賞を受賞し、10月17日に受賞作を含む連作短編集「さよなら、田中さん」(小学館)で小説家デビューした。作家のあさのあつこさんが「鳥肌が立つような才能」と絶賛する新星は、「担任の先生も本を買ってくれた」と無邪気に喜ぶ。

一人っ子で、物心つく前から自宅隣の図書館が「自分の部屋」だった。志賀直哉ら文豪の作品を読みふけり、「光と影があれば、影に目を向けるのが小説」と自然に学んだ。学校の作文は「苦手です。つい創作しちゃって、よく先生に直されていました」と笑う。

学校では家庭科クラブに所属。好きな作家は志賀直哉、吉村昭、遠藤周作。

書く楽しさに目覚めた。短編集の主役は貧しい母子家庭。6年生の娘と母親の日常を、時におかしく、時にほろりとさせる筆致で描く。「どんな話でも、希望を感じられる小説にする」のがこだわりだ。大好評で、既に2度増刷されたが、「将来は小説家になりたいけど、漫画家への道もあきらめていません」。未来へ創造の翼を広げる。

(社会部 石間亜希)



撮影・米田育広

顔

14歳で作家デビューした中学2年生

鈴木 るりかさん 14

(2017年11月4日 読売新聞朝刊より)

中学2年生で「作家デビュー」する人もいるんですね。

あなたが心を動かされた小説はありますか。





学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1	○			
	2		○		
	3				○